

JS-13868

**私設総合サービス網  
(名前通知付加サービス)  
- PBX 間信号プロトコル仕様 -**

Private Integrated Services Network  
(Name identification supplementary services)  
- Specifications for inter-PBX signalling protocol -

第2版

2004年4月20日制定

社団法人  
**情報通信技術委員会**

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、(社)情報通信技術委員会が著作権を保有しています。

内容の一部又は全部を(社)情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

## 目次

< 参考 > .....	3
前書 .....	4
序文 .....	4
1 規定範囲 .....	5
2 適合 .....	5
3 参考文献 .....	6
4 用語と定義 .....	7
4.1 外部定義 .....	7
4.2 名前 .....	7
5 略語一覧 .....	8
6 SS - CNIP と SS - CONP のコーディング条件 .....	9
6.1 オペレーション .....	9
6.2 情報要素 .....	11
6.3 メッセージ .....	12
7 SS - CNIP 提供のための信号プロトコル .....	12
7.1 SS - CNIP 概要 .....	12
7.2 SS - CNIP オペレーション要求条件 .....	12
7.2.1 発 PINX と入ゲートウェイ PINX の要求条件 .....	12
7.2.2 着 PINX と出ゲートウェイ PINX の要求条件 .....	12
7.2.3 中継 PINX の要求条件 .....	12
7.3 SS - CNIP 状態定義 .....	12
7.4 SS - CNIP の起動と実行のための信号手順 .....	12
7.4.1 発 PINX の動作 .....	12
7.4.2 着 PINX の動作 .....	13
7.4.3 中継 PINX の動作 .....	13
7.5 公衆 ISDN や非 ISDN とのインタワーク時の SS - CNIP への影響 .....	13
7.5.1 入ゲートウェイ PINX の動作 .....	13
7.5.2 出ゲートウェイ PINX の動作 .....	14
7.6 SS - CNIP と他の付加サービスや ANF との間のプロトコル相互作用 .....	14
7.6.1 接続先名通知 ( SS - CONP ) .....	14
7.6.2 ビジー時再呼出 ( SS - CCBS ) .....	14
7.6.3 無応答時再呼出 ( SS - CCNR ) .....	14
7.6.4 通信中転送 ( SS - CT ) .....	14
7.6.5 無条件着信転送 ( SS - CFU ) .....	14
7.6.6 ビジー時着信転送 ( SS - CFB ) .....	14
7.6.7 無応答時着信転送 ( SS - CFNR ) との相互作用 .....	14
7.6.8 呼毎着信転送 ( SS - CD ) .....	14
7.6.9 パス張り替え ( ANF - PR ) .....	14
8 SS - CONP 提供のための信号プロトコル .....	15
8.1 SS - CONP 概要 .....	15
8.2 SS - CONP オペレーション要求条件 .....	15

8.2.1	着PINXと出ゲートウェイPINXの要求条件	15
8.2.2	発PINXと入ゲートウェイPINXの要求条件	15
8.2.3	中継PINXの要求条件	15
8.3	SS - CONP状態定義	15
8.4	SS - CONPの起動と実行のための信号手順	15
8.4.1	着PINXの動作	15
8.4.2	発PINXの動作	16
8.4.3	中継PINXの動作	17
8.5	公衆ISDNや非ISDNとのインタワーク時のSS - CONPへの影響	17
8.5.1	出ゲートウェイPINXの動作	17
8.5.2	入ゲートウェイPINXの動作	17
8.6	SS - CONPと他の付加サービスやANFとの間のプロトコル相互作用	17
8.6.1	発信者名通知 (SS - CNIP)	18
8.6.2	ビジー時再呼出 (SS - CCBS)	18
8.6.3	無応答時再呼出 (SS - CCNR)	18
8.6.4	通信中転送 (SS - CT)	18
8.6.5	無条件着信転送 (SS - CFU)	18
8.6.6	ビジー時着信転送 (SS - CFB)	18
8.6.7	無応答時着信転送 (SS - CFNR)	18
8.6.8	呼毎着信転送 (SS - CD)	18
8.6.9	パス張り替え (ANF - PR)	18
	付属資料A (規定)	19
	付属資料B (参考)	24
	付属資料C (規定)	31

< 参考 >

1. 際勧告等との関連

本標準は I S O / I E C J T C 1 において制定された私設総合サービス網における名前通知付加サービスに関連する標準 I S O / I E C 1 3 8 6 8 第 2 版 ( 2 0 0 3 ) に準拠している。

2. 記国際勧告等に対する追加項目等

本標準では国際標準において編集上の誤りと考えられる点については修正すると共に文中にその旨を「注記」として明記した。また、C C I T T と表現されている部分を I T U - T に変更した。

3. 改定の履歴

版 数	発 行 日	改 定 内 容
第 1 版	1 9 9 8 年 1 1 月 2 6 日	制定
第 2 版	2 0 0 4 年 4 月 2 0 日	国際標準の修正 ( I T U - T にて A S N . 1 が改版 ( I T U - T R e c . X 2 0 8 , 2 0 9 X . 6 8 0 , 6 9 0 ) ) を反映した。

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、T T C ホームページでご覧になれます。

5. その他

( 1 ) 参照している勧告、標準等

I T U - T 勧告 :

I . 1 1 2 、 I . 1 3 0 、 I . 2 1 0 、 Z . 1 0 0 、 T . 6 1

I S O / I E C 標準 :

I S O / I E C 1 1 5 7 4 、 I S O / I E C 1 1 5 7 9 - 1

I S O / I E C 1 3 8 6 4 、 I S O / I E C 8 8 5 9 - 1

T T C 標準 :

J S - 1 1 5 7 2 、 J S - 1 1 5 8 2 、 J T - Q 9 3 1 - a 、

J S - 1 3 8 6 9 、 J S - 1 3 8 7 3

( 2 ) 他の国内標準との関連

なし。

6. 標準作成部門

第 1 版 : 第三部門委員会 第一専門委員会

第 2 版 : 企業ネットワーク専門委員会

## 前書

ISO（国際標準化機構）とIEC（国際電気標準化会議）は世界的標準化のため専門的なシステムを組織化したものである。ISOまたはIECのメンバになっている各国団体は、特定の技術活動分野を扱う個別の組織により創立された技術委員会を通じて国際標準の発展に参加している。ISOとIECの技術委員会は共通の関心分野で協力している。他の国際機関、政府、そして非政府もまたISOとIECと連絡をとりあって、この作業に加わっている。

情報技術分野においてISOとIECは合同技術委員会、つまりISO/IEC JTC1を創立した。

国際標準はISO/IECの指示、PART2の中で与えられた規則に従って立案されます。

合同技術委員会の主な仕事は国際標準を準備することである。

合同技術委員会により採用された国際標準案は投票のため各国団体に照会される。国際標準として発行するには投票した各国団体の少なくとも75%の賛成が必要である。

注意はこのドキュメントの要素のうち、いくつかの特許権の主題かもしれない可能性に引き付けられる。ISOとIECが、どれあるいは全てそのような特許権の識別に責任を負うと判決されないものである。

ISO/IEC13868はECMA（ECMA-164として）によって準備され、ISOとIECの各国団体による承認に特別の“ファーストトラックの手続き”の下で、合同技術委員会であるISO/IEC JTC1（情報技術）によって採用された。

この第二版は第一版（ISO/IEC13868:1995）を技術的に改訂した。

## 序文

本標準は私設総合サービス網（PISN）に適用するサービスと信号プロトコルを定義する標準シリーズの1つである。本サービスはITU-Tによって開発されたISDNの概念を使用し、ISO/IECによって定義されている開放型システム間相互接続の構成に従う。

本標準はQ参照点のサポートする発信者名通知（CNIP）と、接続先名通知（CONP）の付加サービスと信号プロトコルを定義している。PSS1プロトコル（非公式にQSIGとして知られている）の、本標準は一部の中で適宜されたプロトコルである。この国際標準は、ECMAメンバー協会の実際的な経験、およびISO/IEC JTC1、ITU-T、ETSI、他の国際的な標準化団体および国際標準化団体の仕事へ、それらの活発で連続的な参加の結果に基づいている。それは実用的で、広くに基づいた一致を表している。

## 1 規定範囲

本標準は私設総合サービス網（P I S N）内で相互に接続される私設総合サービス網交換機（P I N X）間のQ参照点において名前通知付加サービスをサポートするための信号プロトコルを規定する。名前通知付加サービスは発信者名通知（S S - C N I P）と接続先名通知（S S - C O N P）である。

発信者名通知（C N I P）は着ユーザに発ユーザの名前（発信側名）を提供する付加サービスである。

接続先名通知（C O N P）は発ユーザに以下に示す内容を提供する付加サービスである。

- 呼に応答したユーザの名前（接続先名）
- 呼び出されたユーザの名前（着信者名）：オプション
- 接続できなかった着ユーザの名前（話中者名）：オプション

発信者/接続先名通知制限付加サービス（C N I R）は、Q参照点において信号上の影響はない。P I S Nに対してユーザの名前を提供するかは本標準の規定範囲外である。

Q参照点はI S O / I E C 11579-1で定義されている。

サービス仕様はI T U - T勧告I.130で規定された方法に従って3つのステージで作成されている。本標準はQ参照点のためのステージ3仕様を含み、I S O / I E C 13864で規定されるステージ1およびステージ2仕様に示された要求条件を満足している。

S S - C N I PとS S - C O N Pのための信号プロトコルは、J S - 11572<sup>注記</sup>で規定された基本回線交換呼制御のための信号プロトコル上で動作し、J S - 11582で規定された付加サービス制御のための汎用手順の一部を使用する。

本標準は又、名前通知付加サービスと他の付加サービスやA N F との間のQ参照点における相互作用をサポートするための追加の信号プロトコル要求条件を規定している。

本標準は相互接続されてP I S Nを構成するP I N Xに適用可能である。

## 2 適合

本標準に適合するために、P I N Xは付属資料Aのプロトコル実装適合性宣言（P I C S）様式で示される要求条件を満足すべきである。

---

注記：本標準の全ての範囲において用語“J S - 11572”は同等機能を有する標準“J T - Q931 - a”と読み替えて適用することが可能である。

### 3 参考文献

以下の参照が付けられたドキュメントはこのドキュメントの適用のために不可欠である。日付が書かれた参照については引用された版だけが当てはまる。日付がない参照についてはどんな修正も含んだ最新の版が適用される。

- ISO / IEC 8859 - 1:1998、情報処理 8 bit 1byte 符号化グラフィック文字セット - Part 1  
: ラテンアルファベット No. 1
- ISO / IEC 8859 - 2:1998、情報処理 8 bit 1byte 符号化グラフィック文字セット - Part2  
: ラテンアルファベット No. 2
- ISO / IEC 8859 - 3:1998、情報処理 8 bit 1byte 符号化グラフィック文字セット - Part3  
: ラテンアルファベット No. 3
- ISO / IEC 8859 - 4:1998、情報処理 8 bit 1byte 符号化グラフィック文字セット - Part4  
: ラテンアルファベット No. 4
- ISO / IEC 8859 - 5:1999、情報処理 8 bit 1byte 符号化グラフィック文字セット - Part5  
: ラテン/シリルアルファベット
- ISO 8859 - 7:1987、情報処理 8 bit 1byte 符号化グラフィック文字セット - Part 1  
: ラテン/ギリシャ語アルファベット No. 1
- ISO / IEC 10646 - 1: 2000、情報処理ユニバーサル マルチプル - オクテットコード  
文字セット(UCS)- Part1 : アーキテクチャーおよび基礎的な多言語<sup>ラ</sup>
- JS - 11572 : 2003、私設総合サービス網(回線交換ベアラサービス) - PBX間信号  
プロトコル レイヤ3仕様
- ISO / IEC 11574 : 2000、電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網 - 回線  
交換 64kbit/s ベアラサービス - サービス記述、機能モデルと情報フロー
- ISO / IEC 11579 - 1 : 1994、電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網参照構成  
- Part 1 : P I S N交換機 ( P I N X )
- JS - 11582 : 2003、私設総合サ - ビス網(付加サービスのための汎用機能手順)  
- PBX間信号プロトコル仕様
- ISO / IEC 13864 : 1995、電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網 - サービ  
ス記述、機能モデルと情報フロー - 名前識別付加サービス
- JS - 11869 : 2003、私設総合サービス網(通信中転送付加サービス)  
- PBX間プロトコル
- JS - 13873 : 2003、私設総合サービス網(着信転送付加サービス) - PBX間信号プロトコル
- ETS 300 387 : 1994、私設通信網(PTN) : 基礎と付加サービスの特定の的方法論
- ITU - T勧告 I . 112 : 1993、ISDNの用語(ブルーブック)
- ITU - T勧告 I . 210 : 1993、ISDNにより提供される電気通信サービスの原則とそれらの  
記述方法(ブルーブック)))))))))
- ITU - T勧告 Z . 100 : 1999、仕様記述言語(ブルーブック)
- ANSI T1 . 641 : 1995、ANST 発信者名識別プレゼンテーション



## 4 用語と定義

本ドキュメントは以下の用語と定義を適用する。

### 4.1 外部定義

本標準は他のドキュメントで定義された以下の言葉を使用する。

- アプリケーションプロトコルデータユニット ( A P D U )	( J S 11582 )
- 基本サービス	( I T U - T 勧告 I . 210 )
- 呼、基本呼	( J S 11582 )
- コーディネーション機能	( J S 11582 )
- 入ゲートウェイ P I N X	( J S 11572 )
- サービス総合デジタル網	( I T U - T 勧告 I . 112 )
- 発 P I N X	( J S 11572 )
- 出ゲートウェイ P I N X	( J S 11572 )
- 私設総合サービス網 ( P I S N )	( I S O / I E C 11579 - 1 )
- 私設総合サービス網交換機 ( P I N X )	( I S O / I E C 11579 - 1 )
- 信号	( I T U - T 勧告 I . 112 )
- 付加サービス	( I T U - T 勧告 I . 210 )
- 付加サービス制御エンティティ	( J S 11582 )
- 着 P I N X	( J S 11572 )
- 中継 P I N X	( J S 11572 )
- ユーザ	( I S O / I E C 11574 )

### 4.2 名前

ある呼に関して P I S N ユーザの名前識別に使用される最大 50 文字の文字列

## 5 略語一覧

A P D U	Application Protocol Data Unit アプリケーションプロトコルデータユニット
A S N . 1	Abstract Syntax Notation no 1 抽象構文記法 1
I S D N	Integrated Services Digital Network サービス総合デジタル網
N F E	Network Facility Extension ネットワークファシリティ拡張子
P I C S	Protocol Implementation Conformance Statement プロトコル実装適合性宣言
P I S N	Private Integrated Services Network 私設総合サービス網
P I N X	Private Integrated Services Network Exchange 私設総合サービス網交換機
S D L	Specification and Description Language 仕様記述言語
S S C E	Supplementary Service Control Entity 付加サービス制御エンティティ
S S - C N I P	Calling Name Identification Presentation supplementary service 発信者名通知付加サービス
S S - C O N P	Connected Name Identification Presentation supplementary service 接続先名通知付加サービス

## 6 SS - CNIPとSS - CONPのコーディング条件

### 6.1 オペレーション

表 1/JS-13868 のASN.1で定義されたオペレーションが適用される。記法はITU-T勧告X.680およびX.690に従う。ITU-T勧告X.208およびX.209のバージョンは付録Cにある。

表 1/JS-13868 SS - CNIPとSS - CONPをサポートするためのオペレーション

```

Name-Operations-asn1-97
  { iso ( 1) standard ( 0) pss1-name (13868) name-operations-asn1-97(1) }

DEFINITIONS ::=

BEGIN

IMPORTS

OPERATION          FROM Remote-Operations-Information-Objects
                   { joint-iso-itu-t remote-operations( 4) informationObjects(5) version1(0)}
EXTENSION,Extension{} FROM Manufacturer-specific-service-extension-class-asn1-97
                   { iso standard pss1-generic-procedures (11582) msi-class-asn1-97( 11) };

Name-Operation OPERATION ::= { callingName | calledName | connectedName | busyName }

callingName  OPERATION ::= {
    ARGUMENT          NameArg
    RETURN RESULT    FALSE
    ALWAYS RESPONDS  FALSE
    CODE              local: 0
  }

calledName   OPERATION ::= {
    ARGUMENT          NameArg
    RETURN RESULT    FALSE
    ALWAYS RESPONDS  FALSE
    CODE              local: 1
  }

connectedName OPERATION ::= {
    ARGUMENT          NameArg
    RETURN RESULT    FALSE
    ALWAYS RESPONDS  FALSE
    CODE              local: 2
  }

BusyName     OPERATION ::= {
    ARGUMENT          NameArg
    RETURN RESULT    FALSE
    ALWAYS RESPONDS  FALSE
    CODE              local: 3
  }

NameArg      ::= CHOICE {
    Name           Name,
    NameSequence  NameSequence,
    SEQUENCE {
      name         Name,
      extension    NameExtension OPTIONAL
    }
  }

NameExtension ::= CHOICE {
    Single [5] IMPLICIT Extension{{NameExtensionSet}},
    Multiple [6] IMPLICIT SEQUENCE OF Extension{{NameExtensionSet}}
  }

NameExtensionSet EXTENSION ::= {...}

Name           ::= CHOICE
  {
    namePresentationAllowed  NamePresentationAllowed,
    namePresentationRestricted NamePresentationRestricted,
    nameNotAvailable         NameNotAvailable }

```

表 1/JS-13868 SS - CNIPとSS - CONPをサポートするためのオペレーション ( 続き )

```

NamePresentationAllowed ::= CHOICE
    {
        namePresentationAllowedSimple    [0] IMPLICIT NameData,
        namePresentationAllowedExtended  [1] IMPLICIT NameSet }
    -- ISO8859-1はnamePresentationAllowedSimpleを意味する。

NamePresentationRestricted ::= CHOICE
    {
        namePresentationRestrictedSimple  [2] IMPLICIT NameData,
        namePresentationRestrictedExtended [3] IMPLICIT NameSet,
        namePresentationRestrictedNull    [7] IMPLICIT NULL }
    -- iso8859-1はnamePresentationRestrictedSimpleを意味する。
    -- namePresentationRestrictedNullは名前を伴わずに名前の表示を制限
    -- する機能を提供する他網とのインターワークの場合だけ使用される。

NameNotAvailable        ::= [4] IMPLICIT NULL

NameData                ::= OCTET STRING (SIZE (1..50))
    -- 名前フィールドの最大サイズは50オクテットである。
    -- 名前フィールドの最小サイズは1オクテットである。

NameSet                 ::= SEQUENCE
    {
        nameData NameData,
        characterSet CharacterSet OPTIONAL }
    -- characterSetが含まれない場合、ISO8859-1を意味する。

CharacterSet ::= INTEGER
    {
        unknown (0),
        iso8859-1 (1),
        -- 文字セット"iso8859-1"は国際標準ISO 8859-1で規定される。
        -- 値2は、ITU-Tによって取り消されたITU-T勧告T.61のために
        -- 割り当てられていた。
        iso8859-2 (3),
        -- 文字セット"iso8859-2"は国際標準ISO 8859-2で規定される。
        iso8859-3 (4),
        -- 文字セット"iso8859-3"は国際標準ISO 8859-3で規定される。
        iso8859-4 (5),
        -- 文字セット"iso8859-4"は国際標準ISO 8859-4で規定される。
        iso8859-5 (6),
        -- 文字セット"iso8859-5"は国際標準ISO 8859-5で規定される。
        iso8859-7 (7),
        -- 文字セット"iso8859-7"は国際標準ISO 8859-7で規定される。
        iso10646-Bmpstring (8),
        -- 文字セット"iso10646-Bmpstring"は国際標準ISO 10646-1と
        -- ITU-T勧告X.680で規定される。
        -- この文字セットを使う場合はNameDataの各文字は2オクテットを占める。
        Iso10646-utf-8String (9)
        -- 文字セット"iso10646-utf-8String"は国際標準ISO 10646-1で規定される。
        -- UTF-8-Stringはこの文字セットでISO10646-1の付録Rに定義される。
        -- この文字セットを使う場合はNameDataの各文字は1...6の
        -- 可変数を占める。
        } (0..255)
    -- 他の文字セットは本標準の今後の版で追加されるかもしれない。

END --名前オペレーション-asn1-97の終了
    
```

## 6.2 情報要素

SS - CNIPとSS - CONPサポートのために6.1節で定義したオペレーションがJS - 11582に従ってファシリティ情報要素の中でコード化される。

6.1節で定義したオペレーションのインボークAPDUが伝達されるとき、NFEのdestinationEntity

データ要素は“endPINX”値を含む。“discardAnyUnrecognizedInvokeAPDU(0)”値を持つインタプリテーションAPDUがファシリティ情報要素に含まれる。

### 6.3 メッセージ

SS-CNIPとSS-CONPのサポートにおいてファシリティ情報要素を伝達するために、JS-11582で規定されているように基本呼メッセージ「呼出」、「応答」、「切断」、「ファシリティ」、「解放」、「解放完了」、「経過表示」と「呼設定」が使用される。

## 7 SS-CNIP提供のための信号プロトコル

### 7.1 SS-CNIP概要

発信者名通知付加サービス(SS-CNIP)は、着ユーザに発ユーザの名前を提供する付加サービスである。

PISNは発ユーザの名前を提供し、着信呼があるといつでも着ユーザに発ユーザの名前を送出する。

発ユーザの名前の表示はSS-CNIRの規定に従って制限されるかもしれない。あるユーザは発信者名通知制限付加サービスを無視できるサービスプロファイルを持つかもしれない。

この付加サービスはISO/IEC 11574で定義される全ての基本サービスに適用可能である。

### 7.2 SS-CNIP オペレーション要求条件

#### 7.2.1 発PINXと入ゲートウェイPINXの要求条件

JS-11572で規定される呼確立の手順が適用される。さらに、これらのPINXは名前情報を獲得するための役割を果たす。発PINXはユーザの登録できる文字数を50までに制限できる。

JS-11582で規定された呼と関連する付加サービス制御の汎用手順のうち、送信元PINXの手順が適用される。

#### 7.2.2 着PINXと出ゲートウェイPINXの要求条件

JS-11572で規定される呼確立の手順が適用される。加えて、これらのPINXは名前情報をユーザや他網に送出するための役割を果たす。

JS-11582で規定された呼と関連する付加サービス制御の汎用手順のうち、あて先PINXのための手順が適用される。

#### 7.2.3 中継PINXの要求条件

JS-11572で規定される呼確立の手順が適用される。

JS-11582で規定された呼と関連する付加サービス制御の汎用手順のうち、中継PINXのための手順が適用される。

### 7.3 SS-CNIP状態定義

特別な状態の定義は要求されない。

### 7.4 SS-CNIPの起動と実行のための信号手順

#### 7.4.1 発PINXの動作

##### 7.4.1.1 正常手順

発ユーザの名前が利用可能で通知が許可されている場合、callingName インボークAPDUが発PINXから着PINXへ「呼設定」メッセージで送出される。引数にはName型の要素として

NamePresentationAllowed 型が選択される。

発ユーザの名前が利用可能で通知が制限されている場合、callingName インボーク A P D U が発 P I N X から着 P I N X へ「呼設定」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationRestricted 型が選択される。

発ユーザの名前が利用できない場合、callingName インボーク A P D U が発 P I N X から着 P I N X へ「呼設定」メッセージで送出されるかもしれない。引数には Name 型の要素として NameNotAvailable 型が選択される。

#### 7.4.1.2 例外手順

適用されない。

#### 7.4.2 着 P I N X の動作

##### 7.4.2.1 正常手順

引数として NamePresentationAllowed 型の要素を伴う callingName インボーク A P D U を受信した場合、着ユーザが発信者名情報を受信でき、表示を許可されているなら表示識別子を含む名前情報が送出される。

引数として NamePresentationRestricted 型の要素を伴う callingName インボーク A P D U を受信した場合、着ユーザが通知制限を無視できる能力を持たない限り、表示識別子以外の名前情報は着ユーザに送出されない。

callingName インボーク A P D U を受信しないか、引数として NameNotAvailable 型の要素を伴う callingName インボーク A P D U を受信した場合、表示識別子“ name not available ”以外の名前情報は着ユーザに送出されない。

##### 7.4.2.2 例外手順

適用されない。

#### 7.4.3 中継 P I N X の動作

S S - C N I P の提供において特別な動作は要求されない。

#### 7.5 公衆 I S D N や非 I S D N とのインタワーク時の S S - C N I P への影響

##### 7.5.1 入ゲートウェイ P I N X の動作

他網からの着信で、発信者の名前情報が提供される場合、それは 7.4.1 節の規定に従い、着 P I N X に送出される (入ゲートウェイ P I N X が発 P I N X として動作)。他網が発信者の名前情報を提供しないが、発ユーザの名前通知制限を提供する場合、入ゲートウェイ P I N X は着 P I N X へ送出される「呼設定」メッセージに callingName インボーク A P D U を含む。引数には Name 型の要素として NamePresentationRestricted 型の “ namePresentationRestrictedNull ” 値が選択される。

発信者名の文字の数が 50 を越える場合、P I N X は超過した文字を削除する。

公衆網では、発信者の名前情報の送信が遅延する場合がある (例えば、ANSI T1.641-1995 に適合する時、「呼設定」メッセージに続く「ファシリティ」メッセージの中など)。このような場合には、最初の逆方向のエンド・エンド・メッセージ (例えば、「呼出」、「経過表示」、「応答」メッセージなど) が受信された後に、入ゲートウェイ P I N X は、名前情報を、「ファシリティ」メッセージの callingName インボーク A P D U の中に含めて、着 P I N X に送出することがある。

#### 7.5.2 出ゲートウェイPINXの動作

他網への発信で、他網が同等の付加サービスをサポートする場合、PINXは7.4.2節の規定に従い、発ユーザの名前を着PINXに送出する(出ゲートウェイPINXが着PINXとして動作)。

#### 7.6 SS-CNIIPと他の付加サービスやANFとの間のプロトコル相互作用

本節では本標準の発行時点にステージ3標準が既に発行済みの他の付加サービスとANFのプロトコル相互作用を規定する。本標準発行後に発行されるステージ3の付加サービスやANFとの相互作用については、それら標準を参照のこと。

注1：SS-CNIIPと他の付加サービスまたはANFのAPDUが同時に同じメッセージで送られる場合でも、各々のステージ3標準の要求を満たしていれば、それだけではプロトコル相互作用とはみなさない。

注2：Q参照点で信号プロトコルに影響を与えない追加の相互作用については関連するステージ1仕様を参照のこと。

##### 7.6.1 接続先名通知(SS-CONP)

相互作用なし。

##### 7.6.2 ビジー時再呼出(SS-CCBS)

相互作用なし。

##### 7.6.3 無応答時再呼出(SS-CCNR)

相互作用なし。

##### 7.6.4 通信中転送(SS-CT)

プロトコル相互作用はJS-13869で規定される。

##### 7.6.5 無条件着信転送(SS-CFU)

プロトコル相互作用はJS-13873で規定される。

##### 7.6.6 ビジー時着信転送(SS-CFB)

プロトコル相互作用はJS-13873で規定される。

##### 7.6.7 無応答時着信転送(SS-CFNR)との相互作用

プロトコル相互作用はJS-13873で規定される。

##### 7.6.8 呼毎着信転送(SS-CD)

即時呼毎着信転送との相互作用はSS-CFUとの相互作用に関する7.6.5節で規定される。

呼出中呼毎着信転送との相互作用はSS-CFNRとの相互作用に関する7.6.7節で規定される。

##### 7.6.9 パス張り替え(ANF-PR)

相互作用なし。



## 8 SS - CONP 提供のための信号プロトコル

### 8.1 SS - CONP 概要

接続先名通知 (SS - CONP) は、発ユーザに以下に示す内容を提供する付加サービスである

- 呼に応答したユーザの名前
- 呼び出されたユーザの名前：オプション
- 接続できなかった着ユーザの名前：オプション

P I S N は接続先ユーザの名前を提供し、着信呼に着ユーザが応答すると発ユーザに対し接続先ユーザの名前を送出する。

オプションとして P I S N は話中ユーザの名前を提供し、着ユーザが話中のために接続できなかったとき、発ユーザに対し話中ユーザの名前を送出する。

オプションとして P I S N は呼出中ユーザの名前を提供し、着ユーザの呼出を開始したとき発ユーザに対し呼出中ユーザの名前を送出する。

接続先ユーザの名前、話中ユーザの名前と呼出中ユーザの名前は SS - C N I R の規定に従って制限されるかもしれない。あるユーザは接続先名通知制限を無視できるサービスプロファイルを持つかもしれない。

この付加サービスは I S O / I E C 11574 で定義されているあらゆる基本サービスに適用可能である。

### 8.2 SS - CONP オペレーション要求条件

#### 8.2.1 着 P I N X と出ゲートウェイ P I N X の要求条件

J S - 11572 で規定されている呼確立と呼解放の手順が適用される。加えて、これらの P I N X は名前情報を獲得する責任を有する。着 P I N X はユーザの登録できる文字数を 50 までに制限できる。

J S - 11582 で規定された呼と関連した付加サービス制御の汎用手順のうち、送信元 P I N X のための手順が適用される。

#### 8.2.2 発 P I N X と入ゲートウェイ P I N X の要求条件

J S - 11572 で規定されている呼確立と呼解放の手順が適用される。加えて、これらの P I N X は名前情報をユーザや他網に送出する責任を有する。

J S - 11582 で規定された呼と関連した付加サービス制御の汎用手順のうち、受先 P I N X のための手順が適用される。

#### 8.2.3 中継 P I N X の要求条件

J S - 11572 で規定されている呼確立と呼解放の手順が適用される。

J S - 11582 で規定された呼と関連した付加サービス制御の汎用手順のうち、中継 P I N X のための手順が適用される。

### 8.3 SS - CONP 状態定義

特別な状態の定義は要求されない。

### 8.4 SS - CONP の起動と実行のための信号手順

#### 8.4.1 着 P I N X の動作

##### 8.4.1.1 正常手順

着信呼に着ユーザが応答し接続先ユーザの名前が利用可能で通知が許可されている場合、connectedName

インボーク A P D U が着 P I N X から発 P I N X へ「応答」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationAllowed 型が選択される。

話中状態のために着ユーザに着信呼が接続されないが着ユーザの名前が利用可能で通知が許可されている場合、busyName インボーク A P D U が話中状態を通知するメッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationAllowed 型が選択される。

着信呼が着ユーザの呼出を開始し着ユーザの名前が利用可能で通知が許可されている場合、calledName インボーク A P D U が着 P I N X から発 P I N X へ「呼出」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationAllowed 型が選択される。

着信呼に着ユーザが応答し接続先ユーザの名前が利用可能で通知が制限されている場合、connectedName インボーク A P D U が着 P I N X から発 P I N X へ「応答」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationRestricted 型が選択される。

着信呼が話中状態のために着ユーザに接続されないで着ユーザの名前が利用可能で通知が制限されている場合、busyName インボーク A P D U が話中状態を通知するメッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationRestricted 型が選択される。

着信呼で着ユーザの呼出を開始し着ユーザの名前が利用可能で通知が制限されている場合、calledName インボーク A P D U が着 P I N X から発 P I N X へ「呼出」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NamePresentationRestricted 型が選択される。

着信呼に着ユーザが応答し接続先ユーザの名前が利用できない場合、connectedName インボーク A P D U が着 P I N X から発 P I N X へ「応答」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NameNotAvailable 型が選択される。

着信呼が話中状態のために着ユーザに接続されないで着ユーザの名前が利用できない場合、busyName インボーク A P D U が話中状態を通知するメッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NameNotAvailable 型が選択される。

着信呼で着ユーザの呼出を開始し着ユーザの名前が利用できない場合、calledName インボーク A P D U が着 P I N X から発 P I N X へ「呼出」メッセージで送出される。引数には Name 型の要素として NameNotAvailable 型が選択される。

#### 8.4.1.2 例外手順

適用されない。

#### 8.4.2 発 P I N X の動作

##### 8.4.2.1 正常手順

引数として NamePresentationAllowed 型の要素を伴う connectedName インボーク A P D U を「応答」メッセージで受信した場合、接続先名情報を受信でき、受信を許可されているなら表示識別子を含む名前情報が発ユーザに送出される。

引数として NamePresentationAllowed 型の要素を伴う busyName インボーク A P D U が話中状態を示すメッセージに含まれている場合、発ユーザが接続先名情報を受信でき、表示が許可されているなら表示識別子を含む名前情報が送出される。

引数として NamePresentationAllowed 型の要素を伴う calledName インボーク A P D U を「呼出」メッセージで受信した場合、発ユーザが接続先名情報を受信でき、表示が許可されているなら表示識別子を含む名前情報が送出される。

引数として NamePresentationRestricted 型の要素を伴う connectedName インボーク A P D U を「応答」メッセージで受信した場合、発ユーザが通知制限を無視できる能力を持たない限り、表示識別子以外の名前

情報は発ユーザに送出されない。

引数として NamePresentationRestricted 型の要素を伴う busyName インボーク A P D U が話中状態を示すメッセージで受信された場合、発ユーザが通知制限を無視できる能力を持たない限り、表示識別子以外の名前情報は発ユーザに送出されない。

引数として NamePresentationRestricted 型の要素を伴う calledName インボーク A P D U を「呼出」メッセージで受信した場合、発ユーザが通知制限を無視できる能力を持たない限り、表示識別子以外の名前情報は発ユーザに送出されない。

「応答」メッセージに connectedName インボーク A P D U が含まれないか、引数として NameNotAvailable 型の要素を伴う connectedName インボーク A P D U を「応答」メッセージで受信した場合、表示識別子 “ name not available ” 以外の名前情報は発ユーザに送出されない。

「呼出」メッセージに calledName インボーク A P D U が含まれないか、引数として NameNotAvailable 型の要素を伴う calledName インボーク A P D U を「呼出」メッセージで受信した場合、表示識別子 “ name not available ” 以外の名前情報は発ユーザに送出されない。

話中状態を示すメッセージに busyName インボーク A P D U が含まれないか、引数として NameNotAvailable 型の要素を伴う busyName インボーク A P D U を受信した場合、表示識別子 “ name not available ” 以外の名前情報は発ユーザに送出されない。

#### 8.4.2.2 例外手順

適用されない。

#### 8.4.3 中継 P I N X の動作

S S - C O N P 提供で特別な動作は要求されない。

### 8.5 公衆 I S D N や非 I S D N とのインタワーク時の S S - C O N P への影響

#### 8.5.1 出ゲートウェイ P I N X の動作

他網への発信で、他網が呼に応答したユーザの名前や呼出されたユーザの名前や接続できないユーザの名前を提供する場合、8.4.1 節の規定に従い発 P I N X に送出される（出ゲートウェイ P I N X が着 P I N X として動作）。

他網が応答したユーザの名前や呼出されたユーザの名前や接続できないユーザの名前を提供しないが、名前通知制限を提供する場合、出ゲートウェイ P I N X は発 P I N X へ送出される適切なメッセージに適切な名前インボーク A P D U（connectedName、calledName あるいは busyName）を含む。引数には Name 型の要素として NamePresentationRestricted 型の “ namePresentationRestrictedNull ” 値が選択される。

接続先 / 着信 / 話中者名の文字の数が 50 を越える場合、P I N X は超過した文字を削除する。

#### 8.5.2 入ゲートウェイ P I N X の動作

他網からの着信で、他網が同等の付加サービスを提供する場合、P I S N は 8.4.2 節の規定に従い応答したユーザの名前や呼出されたユーザの名前や接続できないユーザの名前を送出する（入ゲートウェイ P I N X が発 P I N X として動作）。

### 8.6 S S - C O N P と他の付加サービスや A N F との間のプロトコル相互作用

本節では本標準発行時点で、ステージ 3 標準が既に発行済みの他の付加サービスや A N F とのプロトコル相互作用を規定する。本標準発行後に発行されるステージ 3 の付加サービスや A N F との相互作用については、それら標準を参照のこと。

注1：SS - CONPと他の付加サービスまたはANFのAPDUが同時に同じメッセージで送られる場合でも、各々のステージ3標準の要求を満たしていれば、それだけではプロトコル相互作用とはみなさない。

注2：Q参照点で信号プロトコルに影響を与えない追加の相互作用については関連するステージ1仕様を参照のこと。

8.6.1 発信者名通知 (SS - CNIP)

相互作用なし。

8.6.2 ビジー時再呼出 (SS - CCBS)

相互作用なし。

8.6.3 無応答時再呼出 (SS - CCNR)

相互作用なし。

8.6.4 通信中転送 (SS - CT)

プロトコル相互作用はJS - 13869で規定される。

8.6.5 無条件着信転送 (SS - CFU)

プロトコル相互作用はJS - 13873で規定される。

8.6.6 ビジー時着信転送 (SS - CFB)

プロトコル相互作用はJS - 13873で規定される。

8.6.7 無応答時着信転送 (SS - CFNR)

プロトコル相互作用はJS - 13873で規定される。

8.6.8 呼毎着信転送 (SS - CD)

即時呼毎着信転送との相互作用はSS - CFUとの相互作用に関する8.6.5節<sup>注記</sup>で規定される。

呼出中呼毎着信転送との相互作用はSS - CFNRとの相互作用に関する8.6.7節<sup>注記</sup>で規定される。

8.6.9 パス張り替え (ANF - PR)

相互作用なし。

---

注記：ISO/IEC 13868 原文では7.6節を参照しているが誤りと考えられるため修正した。

## 付属資料A（規定）

### プロトコル実装適合性宣言(P I C S)

#### A . 1 はじめに

本標準に適合したプロトコル実装の提供者は後述するプロトコル実装適合性宣言(P I C S)様式を完成しなければならない。

作成するのはその実装したプロトコルに該当するP I C Sである。P I C Sは実装したプロトコルの能力、オプションについて作成された一覧表である。P I C Sには多くの利用法があり、それには以下のものが含まれる。

- プロトコルを実装する者 : 見落としによって、標準への適合に失敗する危険性を減らすためのチェックリスト。
- 実装の提供側 / 受け手側 (又は潜在的な受け手) : 実装におけるその能力の詳細な表示を行う時に用いる。標準へP I C S様式で示された理解を得るための共通の標準に対する比較として記述される。
- 実装のユーザ (又は潜在的なユーザ) : 他の実装されたものと相互接続性の初期チェックを行う場合の基準となる。相互接続性を保証することはできないものの、P I C Sの不整合によって相互接続が失敗することをおよそ予測することができる。
- プロトコル試験者 : 実装適合性の要求内容を審査するために適当な試験を選択するための基準となる。

#### A . 2 P I C S作成の指針

##### A . 2 . 1 P I C Sの全体構成

P I C S様式は定形の質問票であり、個々の項目がグループ化されて分けられている。それぞれの項目は項目番号、項目名(答えるべき質問)と本標準の本文を参照するための章番号により識別される。

"位置づけ"欄は、その項目が適用対象か、もしそうであれば必須かオプションかを示す。以下の記号が使用される

- m 必須 (プロトコル適合性のためにその能力が要求される);
- o オプション (プロトコル適合性のためにその能力は要求されない。しかし、その能力が実装されている時には、プロトコルの仕様に適合しなければならない。);
- o. <n> オプションであるが同じ<n>の番号で示されるグループの中で少なくとも1つをサポートしなければならない。;
- x 禁止;
- c.<cond> 条件指定。条件<cond>で示される項目番号がサポートされている場合は必須。;
- <item>:m 単純条件要求。<item>で示される項目番号がサポートされている場合は必須。そうでなければ適用対象外。;
- <item>:o 単純条件要求。<item>で示される項目番号がサポートされている場合はオプション。そうでなければ適用対象外。;

質問票への回答は"サポート"欄に示す選択肢(Yes)又は(No)か、"適用対象外"欄(N/A)のいずれかをマークすることで行われる

#### A . 2 . 2 付加情報

付加情報の項目を用いて、提供者はP I C Sの解釈を助けるために追加の情報を与えることができる。これは大量の情報を提供することを意図したり、このような情報がないとP I C Sが完成しないということの意味するものでない。多様な条件や環境の中で利用することが可能な実装方法の一つについて、概要を記述するために用いることが(付加情報の)利用例にあげられる。

付加情報項目への参照は質問事項のどの回答の後でも可能であり、また例外情報にも含まれることがある。

#### A . 2 . 3 例外情報

提供者が、必須や禁止に位置づけられている項目に対して、(いくつかの条件が適用された後)要求されているものとは異なる方法で回答したい場合が生じるかもしれない。"サポート"欄に予め印刷された答が用意されていない場合は、その代わりに提供者は例外情報項目への参照のために"サポート"欄に x.<i>を記入し、例外項目に対して適当な記述をすることが要求される。

このように例外項目が要求される実装は本標準には適合しない。上の記述のような場合が生じる一つの原因として本標準の不備により要求項目が実装に合わず、訂正の要求がなされていることもありうる。

### A.3 PICS様式

#### A.3.1 実装の識別

提供者(注1)	
PICSに関する問い合わせ先(注1)	
実装名と実装のバージョン(注1、2)	
実装を完全に識別するために必要な他の情報 (例) 装置名またはOS名とそのバージョン、システム名	

(注1)最初の3項目は全ての実装に際して要求される。他の情報は、実装を完全に識別する要求を満たす上で、必要に応じて記入すればよい。

(注2)名前とバージョンは提供者の用語と適当に一致するよう解釈されるべきである。(例:型、シリーズ、モデル)

#### A.3.2 プロトコルの要約

プロトコルのバージョン	1.0
実装した追加仕様 (もし適用が可能ならば)	
実装した追加仕様	
例外項目の必要性はあるか?(A.2.3 参照)	No <input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> (Yesの場合、その実装は本標準に適合しないことを意味する。)
記入日	

A.3.3 付加サービス

項目	項目名	参照	位置付け	N/A	サポート
A1	SS - CNIPのサポート	7	o.1	-	Yes [ ] No [ ]
A2	SS - CONPのサポート	8	o.1	-	Yes [ ] No [ ]

A.3.4 SS - CNIPの手順

項目	項目名	参照	位置付け	N/A	サポート
B1	発PINXの信号手順	7.4.1	A1:o.2	-	Yes [ ] No [ ]
B2	着PINXの信号手順	7.4.2	A1:o.2	-	Yes [ ] No [ ]
B3	入ゲートウェイPINXの信号手順	7.5.1	A1:o.2	-	Yes [ ] No [ ]
B4	出ゲートウェイPINXの信号手順	7.5.2	A1:o.2	-	Yes [ ] No [ ]
B5	calling Name APDUのコーディング	6	A1:m	-	Yes [ ]
B6	「呼設定」メッセージでの calling Name APDUの送信	6、7.4.1	c.1	[ ]	Yes [ ]
B7	「呼設定」メッセージでの calling Name APDUの受信	6、7.4.2	c.2	[ ]	Yes [ ]
B8	文字セット番号の送信	6.1	c.3	[ ]	Yes [ ] No [ ]
B9	「ファシリティ」メッセージでの calling Name APDUの送信	7.5.1	B3:o	[ ]	Yes [ ] No [ ]
B10	「ファシリティ」メッセージでの calling Name APDUの受信	7.4.2	B2:o	[ ]	Yes [ ] No [ ]

- c.1:B1,B3 のどれかが選択された場合には必須、それ以外は N/A となる
- c.2:B2,B4 のどれかが選択された場合には必須、それ以外は N/A となる
- c.3:B1,B3 のどれかが選択された場合にはオプション、それ以外は N/A となる



A.3.5 SS-CONPの手順

項目	項目名	参照	位置付け	N/A	サポート
C1	着PINXの信号手順	8.4.1	A2:o.3	-	Yes [ ] No [ ]
C2	発PINXの信号手順	8.4.2	A2:o.3	-	Yes [ ] No [ ]
C3	出ゲートウェイPINXの信号手順	8.5.1	A2:o.3	-	Yes [ ] No [ ]
C4	入ゲートウェイPINXの信号手順	8.5.2	A2:o.3	-	Yes [ ] No [ ]
C5	connected Name A P D Uのコーディング	6	A2:m	-	Yes [ ]
C6	busy Name A P D Uのコーディング	6	A2:o	-	Yes [ ] No [ ]
C7	called Name A P D Uのコーディング	6	A2:o	-	Yes [ ] No [ ]
C8	「応答」メッセージでの connected Name A P D Uの送信	6、8.4.1	c.1	[ ]	Yes [ ]
C9	「応答」メッセージでの connected Name A P D Uの受信	6、8.4.2	c.2	[ ]	Yes [ ]
C10	「切断」 <sup>注記</sup> メッセージでのbusy Name A P D Uの送信	6、8.4.1	c.3	[ ]	Yes [ ] No [ ]
C11	「切断」 <sup>注記</sup> メッセージでのbusy Name A P D Uの受信	6、8.4.2	c.4	[ ]	Yes [ ] No [ ]
C12	「呼出」メッセージでの called Name A P D Uの送信	6、8.4.1	c.3	[ ]	Yes [ ] No [ ]
C13	「呼出」メッセージでの called Name A P D Uの受信	6、8.4.3	c.4	[ ]	Yes [ ] No [ ]
C14	文字セット番号の送信	6.1	c.3	[ ]	Yes [ ] No [ ]

c.1:C1,C3のどちらかが選択された場合には必須、それ以外はN/Aとなる

c.2:C2,C4のどちらかが選択された場合には必須、それ以外はN/Aとなる

c.3:C1,C3のどちらかが選択された場合にはオプション、それ以外はN/Aとなる

c.4:C2,C4のどちらかが選択された場合にはオプション、それ以外はN/Aとなる

注記：本文中では、「切断」とは明記されておらず「話中状態を通知するメッセージ」と表現されているので、実装にあたっては注意すること。

## 付属資料B（参考）

### 仕様記述言語(SDL)表現

この付属資料の図はITU-T勧告Z.100で定義された仕様記述言語を使用している。

それぞれの図はPINXの個々の形でのSS-CNIP, SS-CONP付加サービス制御エンティティの動作を表現している。付加サービス制御エンティティはJS-11582で記述されているプロトコルモデルに従って、コーディネーション機能経由で汎用機能転送制御と基本呼制御のサービスを使用する。

出力記号はコーディネーション機能に対するプリミティブを表現し、そのプリミティブは送出されるレイヤ-3メッセージとなる。出力記号はメッセージとそのメッセージに含まれる任意のリモートオペレーションAPDUの名前を伴う。JS-11572で規定されたメッセージの場合、メッセージの送出に関連して基本呼動作が発生すると見なす。

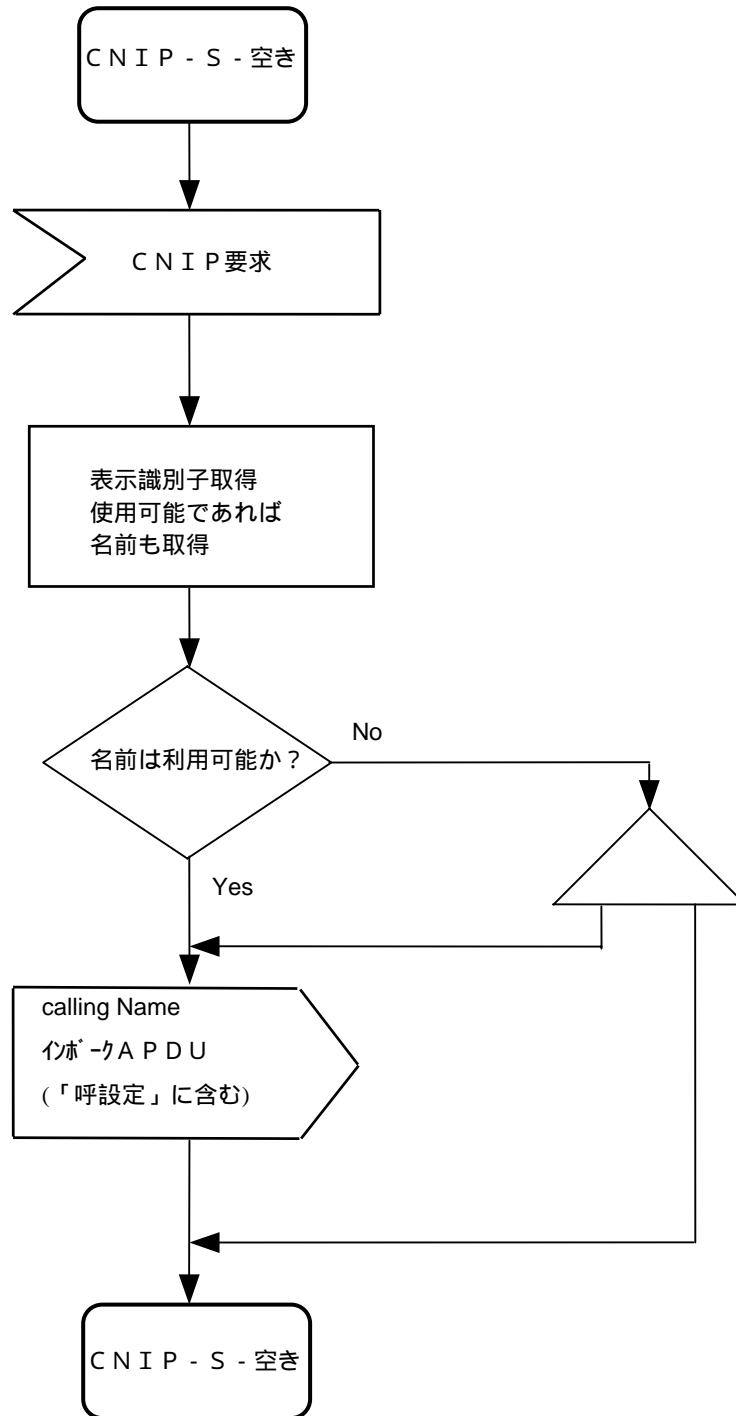
## B.1 SS - CNIPのSDL表現

付図 B.1/JS-13868 は、発PINXのSS - CNIP付加サービス制御エンティティの動作を示す。

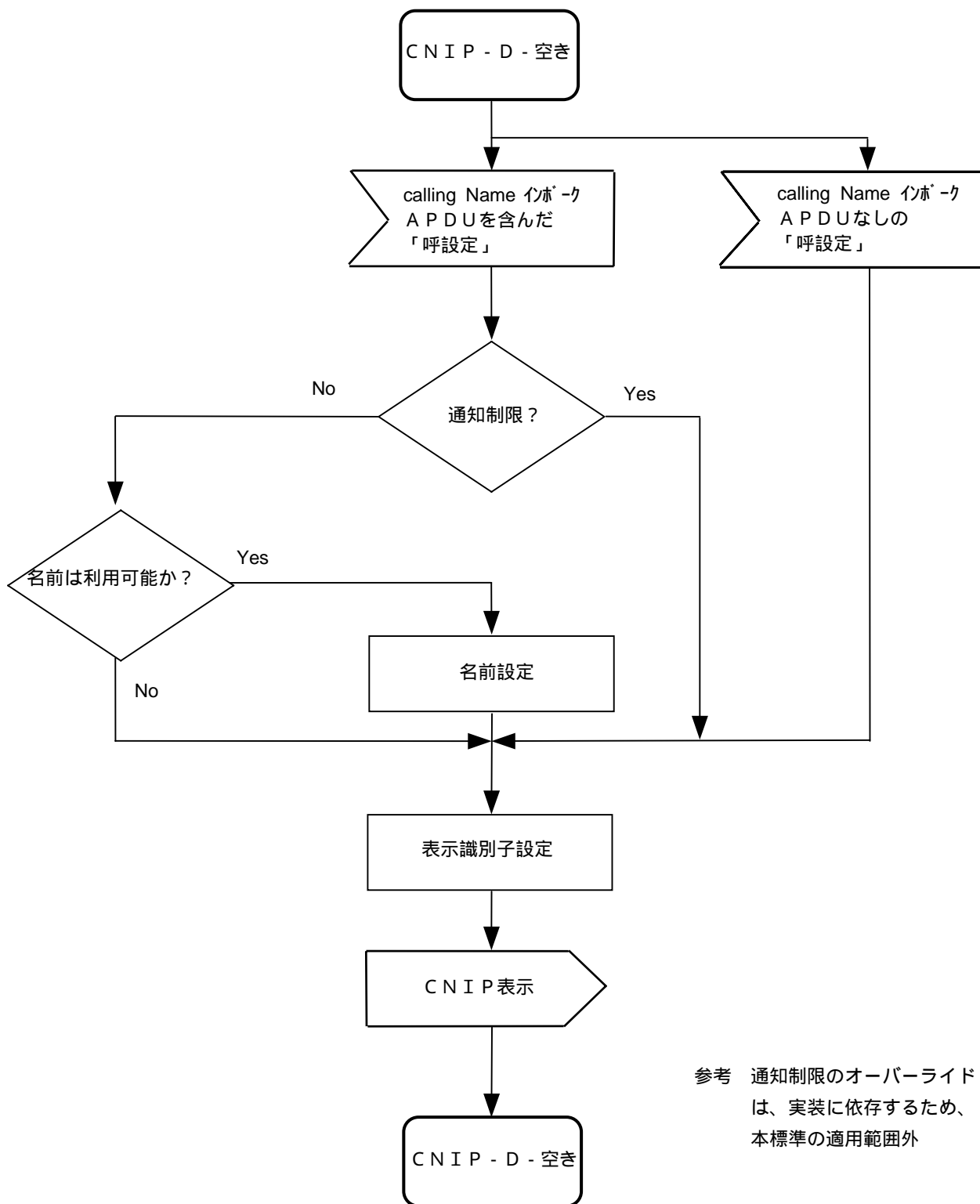
付図 B.2/JS-13868 は、着PINXのSS - CNIP付加サービス制御エンティティの動作を示す。

付図 B.1/JS-13868 では、右への出力信号は、出側のプロトコル制御を通して送られるメッセージを、左からの入力信号は、SSCEユーザからのプリミティブを表現する。

付図 B.2/JS-13868 では、右への出力信号は、SSCEユーザへのプリミティブを、左からの入力信号は、入側のプロトコル制御を通して受信するメッセージを表現する。



付図 B.1/JS-13868 発PINXでのSS - CNIPのSDL図



付図 B.2/JS-13868 着PINXでのSS - CNIPのSDL図

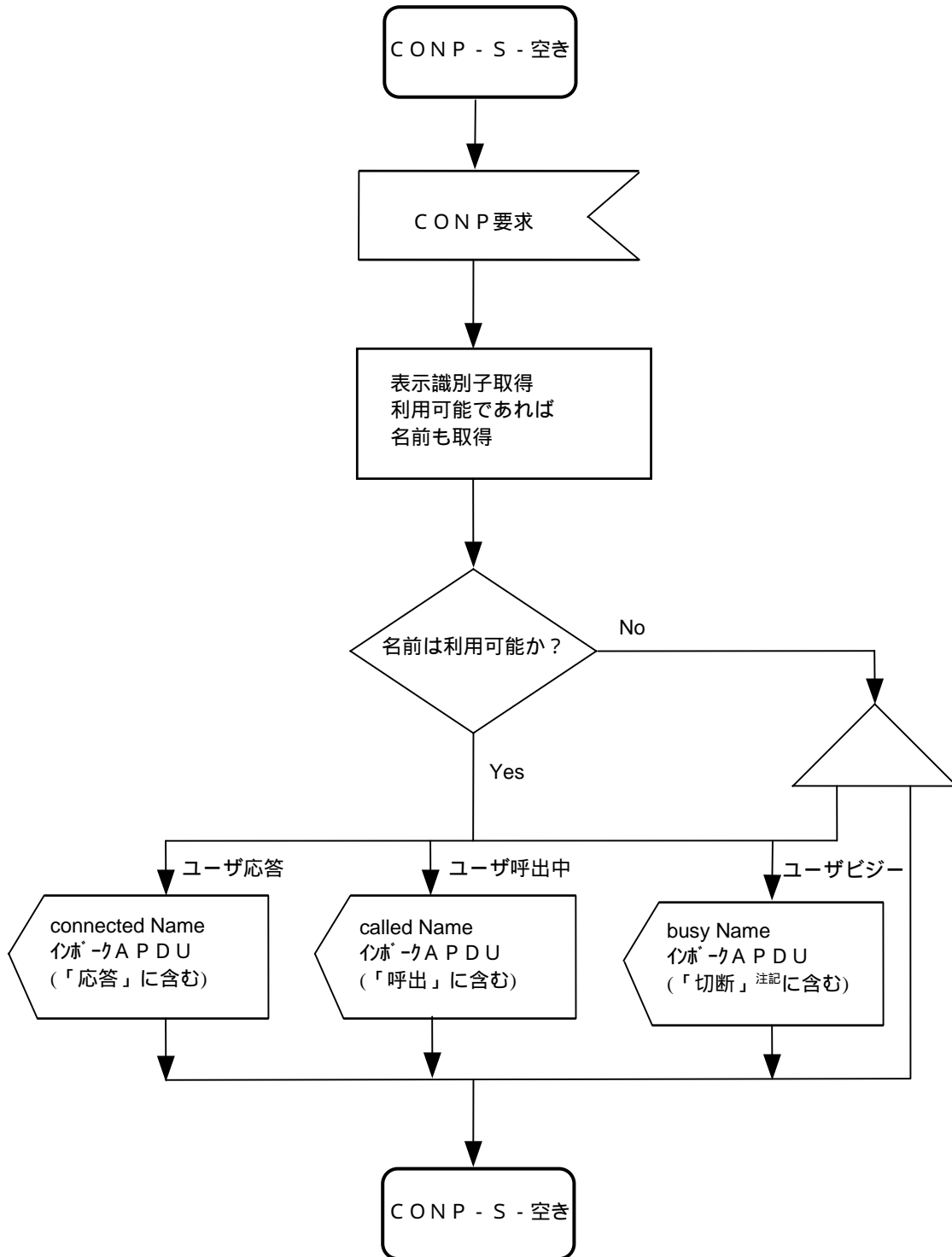
## B.2 SS - CONPのSDL表現

付図 B.3/JS-13868 は、着PINXのSS - CONP付加サービス制御エンティティの動作を示す。

付図 B.4/JS-13868 は、発PINXのSS - CONP付加サービス制御エンティティの動作を示す。

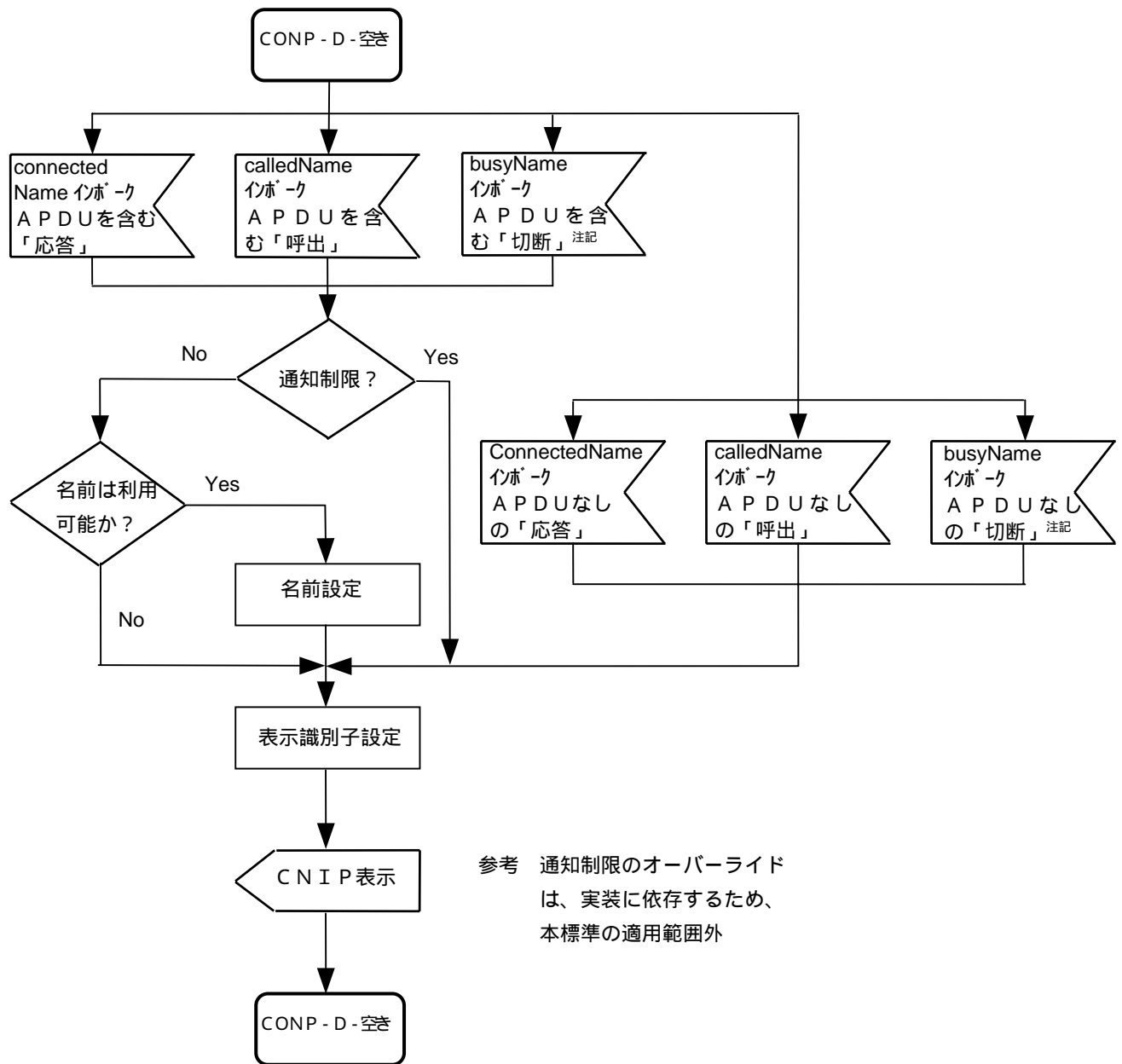
付図 B.3/JS-13868 では、左への出力信号は、入側のプロトコル制御を通して送られるメッセージを、右からの入力信号は、SSCユーザからのプリミティブを表現する。

付図 B.4/JS-13868 では、左への出力信号は、SSCユーザからのプリミティブを、右からの入力信号は、出側のプロトコル制御を通して受信するメッセージを表現する。



付図 B.3/JS-13868 着PINXにおけるSS-CONPのSDL図

注記：本文中では、「切断」とは明記されておらず「話中状態を通知するメッセージ」と表現されているので、実装にあたっては注意すること。



参考 通知制限のオーバーライドは、実装に依存するため、本標準の適用範囲外

付図 B.4/JS-13868 発PINXにおけるSS-CONPのSDL図

注記：本文中では、「切断」とは明記されておらず「話中状態を通知するメッセージ」と表現されているので、実装にあたっては注意すること。



付属資料C (規定)

ITU-T Recs. X.208/X.209 に準拠した、ASN.1 定義

この付属資料は、前版のISO/IEC 13868で規定されている全てのASN.1モジュールをリストアップしており、例えばITU-T勧告X.208/X.209などに基づいている。ISO/IEC 13868については、今版のASN.1モジュール以降からは、ITU-T勧告X.680/X.690に準拠することとする。

表 C-1/JS-13868 ITU-T Recs. X.208/X.209 に基づいた名前オペレーション

```

Name-Operations
    { iso ( 1 ) standard ( 0 ) pss1-name ( 13868 ) name-operations( 0 ) }

DEFINITIONS ::=
BEGIN
EXPORTS      Name, NameSet;
IMPORTS

    OPERATION, ERROR FROM      Remote-Operation-Notation
                                {
                                joint-iso-ccitt( 2 ) remote-operations( 4 )
                                notation( 0 )
                                }

    Extension      FROM      Manufacturer-specific-service-extension-definition
                                {
                                iso standard
                                pss1-generic-procedures ( 11582 )
                                msi-definition ( 0 )
                                };

    CallingName ::= OPERATION
                    ARGUMENT CHOICE
                    {
                    Name, SEQUENCE { Name, CHOICE {
                    [5] IMPLICIT Extension,
                    [6] IMPLICIT SEQUENCE OF Extension } OPTIONAL } }

    CalledName ::= OPERATION
                    ARGUMENT CHOICE
                    {
                    Name, SEQUENCE { Name, CHOICE {
                    [5] IMPLICIT Extension,
                    [6] IMPLICIT SEQUENCE OF Extension } OPTIONAL } }

```

```

ConnectedName ::= OPERATION
                ARGUMENT CHOICE
                {
                    Name, SEQUENCE {Name, CHOICE {
                        [5] IMPLICIT Extension,
                        [6] IMPLICIT SEQUENCE OF Extension } OPTIONAL }}

BusyName       ::= OPERATION
                ARGUMENT CHOICE
                {
                    Name, SEQUENCE {Name, CHOICE {
                        [5] IMPLICIT Extension,
                        [6] IMPLICIT SEQUENCE OF Extension } OPTIONAL }}

Name           ::= CHOICE
                {
                    NamePresentationAllowed,
                    NamePresentationRestricted,
                    NameNotAvailable }

NamePresentationAllowed
                ::= CHOICE
                {
                    namePresentationAllowedSimple [0] IMPLICIT NameData,
                    namePresentationAllowedExtended [1] IMPLICIT NameSet }
                -- iso8859-1はnamePresentationAllowedSimpleを意味する。

NamePresentationRestricted
                ::= CHOICE
                {
                    namePresentationRestrictedSimple [2] IMPLICIT NameData,
                    namePresentationRestrictedExtended [3] IMPLICIT NameSet,
                    namePresentationRestrictedNull [7] IMPLICIT NULL}
                -- iso8859-1はnamePresentationRestrictedSimpleを意味する。
                -- namePresentationRestrictedNull は、名前を持たず、名前の表示
                -- が制限されている他網とのインターワークを行うような場合に
                -- のみ使用される。

NameNotAvailable
                ::= [4] IMPLICIT NULL

NameData       ::= OCTET STRING (SIZE (1..50))
                -- 名前フィールドの最大サイズは50オクテットである。
                -- 名前フィールドの最小サイズは1オクテットである。

NameSet        ::= SEQUENCE
                {
                    nameData      NameData,
                    characterSet   CharacterSet OPTIONAL }
                -- characterSet が含まれない場合は、iso8859-1 を意味する。
    
```

```

CharacterSet ::= INTEGER
    {
        unknown (0),
        iso8859-1 (1),
        -- 値(2)はCCITT Rec. T.61に割り当てられていたが、
        -- このCCITT Rec. T.61はITU-Tにより既に廃案された。
        iso8859-2 (3),
        iso8859-3 (4),
        iso8859-4 (5),
        iso8859-5 (6),
        iso8859-7 (7),
        iso10646-BmpString (8),
        iso10646-utf-8String (9)
    } (0..255)
-- 文字セット"iso8859-1" は国際標準ISO 8859-1で規定される。
-- 文字セット"iso8859-2" は国際標準ISO 8859-2で規定される。
-- 文字セット"iso8859-3" は国際標準ISO 8859-3で規定される。
-- 文字セット"iso8859-4" は国際標準ISO 8859-4で規定される。
-- 文字セット"iso8859-5" は国際標準ISO 8859-5で規定される。
-- 文字セット"iso8859-7" は国際標準ISO 8859-7で規定される。
-- 他の文字セットは本標準の今後の版で追加される可能性がある。
-- 文字セット "iso10646-BmpString" は国際標準ISO 10646-1
-- とITU-T Rec. X.680 で規定される。
-- この文字セットを使う場合は、NameDataの各文字は2オクテット
-- を占有する。
-- 文字セット "iso10646-utf-8String" は国際標準ISO 10646-1
-- で規定される。
-- UTF-8-文字列は付属資料R のISO 10646-1にて定義されている。
-- この文字セットを使う場合は、NameDataの各文字は可変的に
-- 1 ~ 6 オクテットを占有する。

callingName      CallingName      ::= localValue 0
calledName       CalledName       ::= localValue 1
connectedName    ConnectedName    ::= localValue 2
busyName         BusyName         ::= localValue 3
    
```

END – 名前オペレーションの終了